平成21年度　市長との対話会（タウンミーティング）緑区会場　議事録

日　　時：平成２１年１２月５日（日）　１４：００～１６：００
場　　所：緑区役所　講堂
参　加　者：１１９名

■開会

【鈴木企画調整局次長】

定刻となりましたので、ただいまより、市長との対話会、テーマは 10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性、についてを開催させて頂きます。私は本日の進行役を務めさせて頂く企画調整局次長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

まず本日のスケジュールでございますけれども、はじめに市長から、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況について、ご説明をさせて頂きます。その後、市長と皆様方との意見交換に入らせて頂く予定となっております。お時間は 16 時までの予定でございますので、円滑な進行にご協力を頂きますようお願い申し上げます。

それでは、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況について、熊谷市長、よろしくお願いいたします。

■市長からの説明　テーマ『10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性』について

【熊谷市長】

皆さんこんにちは。本日は土曜日のお時間にお集まり頂き、ありがとうございます。

今までに４か所で、このタウンミーティングをやってきました。この緑区は人数が圧倒的に多くてびっくりしています。多くても 70 人ぐらいだったんですが、今回は 100 人を超えているということを聞きまして、緑区のまちづくりに対する関心の高さに、驚いています。本日は有意義な意見交換をさせて頂いて、われわれの参考にさせて頂きたいと思っています。

さて、本日は 10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性ということで、ちょうどこれから基本計画というものを、これは千葉市の今後 10 年間を決める計画ですが、作ります。この基本計画をつくるにあたって、市民の皆様が、この千葉市をどういうまちにしていきたいのか、そして、どういうまちに住みたいと思っているのか、その中で、市民の皆様の役割をどう果たしていこうと考えているのか、どういうふうに一緒にやっていけるのか、そういうことについて意見交換をした上で、10 年後に向けたまちづくりをしていきたいと思いまして、このタウウンミーティングをさせて頂きました。

もちろん、市長にこういうことを言いたい、ということがさまざまあると思いますけれど、今回の目的は、10 年後に向けた千葉市の方向性についての意見交換だということを、まずご理解頂きたいと思います。

それではスライドに従って、説明していきます。

本日の流れですが、まず１番目に、その基本計画とは何ぞやということ、基本計画の位置づけについて話したいと思います。

２番目に、その基本計画を作るにあたって、共通の認識を持たなければ話がずれてしまいますので、千葉市が今どういう状態にあって、これからどうなっていくのか、そのあたりのデータについてお話をし、また、財政ですね、お金がなければ何もできませんので、お金が今どういう状態なのか、これからどうなっていくのか、その点について説明していきます。

３番目に、その財政が今、非常に危険な状況にありますので、その財政について、われわれがどう持ち直していこうとしているのか、その方向性について話したいと思います。

そして、最後の４番目が本題ですけれども、これからのまちづくりということで、どういう視点で考えなければならないかということについて、お話を申し上げた上で、意見交換をしたいと思います。

まず、基本計画の策定についてです。

基本計画の位置づけですが、われわれは行政ですから、ある程度、中期の長いスパンでの計画の中で、予算や、さまざまな計画を立てます。

まず、基本構想という基本的な理念があります。例えば、住んで良かったと思えるまちにしたいとか、自然を大事にしたいとかいうような、どちらかというと漠然とした大きな方向性について定めたものが、基本構想です。

その下に、基本計画というものがあります。今は「ちば･ビジョン２１」という、計画期間が平成 13 年度から 27 年度の 15 年間を対象にした計画があります。ここには、基本構想をさらに具体化させて、どういうまちを目指すのかということが書かれています。

そして、それを受けて実施計画という、今で言えば第２次５か年計画ですが、そういう計画があります。これは、平成 18 年度から 22 年度の５年間を対象に、いくらぐらいお金をかけて、どういうものを具体的につくるか、どういう制度をつくるかとかいう、予算をつくる前提となる計画です。

そういう３層構造になっていますが、今回お話するのは、そのうちの基本計画の見直しです。時代が変わってきましたので、ここを変えなければならないというのが、この新たな基本計画の策定ということです。

具体的に基本計画をつくるにあたって、どういうことを考えていかなければいけないかということです。

まず、人口減少社会の到来ということです。よく、人口減少とか高齢化という話を聞きますけれど、これは本当に大きなことで、日本の歴史が始まってから、人口が減るのは初めてのことです。これから、日本の歴史にもない、当然、千葉の歴史にもない、そういう新たな局面を迎えます。これまでのような、人口が増える、右肩上がりで想定していた、あらゆる常識や行政の計画は成立しなくなります。初めて、今までとは違うことを考えなくてはならなくなりますので、今までの基本計画とは全く違う、新しい基本計画の考え方で臨まなくてはならない、ということです。

それから、地球の温暖化です。環境問題に、本当の意味で真剣に取り組まなくてはいけないということです。

それから、分権型システムへの移行ということです。今、国でも地方分権の話が出ており

ますけれど、より市の方にまちづくりの権限が移ってまいりますから、そういう意味でも責任を持たなければいけませんし、さらに言えば、市よりも下のところに権限を落としていかなければ、多様化する社会には対応できないという考え方が必要です。

それから、先程申し上げたように、少子高齢化の問題があります。

そして、集約型都市構造への転換です。これはちょっと難しいんですが、今までは膨張を前提にしたまちづくりをしてきました。まちがないところにまちができたり、道路ができていないところに道路ができる、という考え方でした。しかし、これから人口が減るということは、家があったところ、道路があったところを、もう使わなくなる。どんどんしぼむ形になるんです。しぼむというのは悪い意味ではなくて、そういう形に、まちがなっていくんです。そういう中で、まちづくりを考えていかなくてはなりません。コンパクトシティとよく言われていますけれど、人口が減っていく中で、スリムなまちづくりを考えていかなくてはなりません。

それから、市の財政状況の悪化ということです。今までは経済が順調に伸びていましたので、市の予算も増えていました。お金もある程度、潤沢にありました。しかしこれからは、ある程度お金も限られてきます。ですから、この限られたお金の中で、どうまちづくりを維持するかということを、考えなくてはなりません。

こういうものを踏まえた、新たな基本計画を作らなくてはいけません。それにあたっては、行政だけで考えるのではなくて、市民、企業、NPO など、さまざまな人が参加できるということ、そして、ここは緑区ですけれども、緑区なら緑区で、その特性を活かしたまちづくりをしていくことが必要になります。

今、どういう状況にあるかをご説明します。

今回、この「ちば･ビジョン２１」を見直して、平成 24 年度から 33 年度の 10 年間を、新たな計画期間としまして、作成に入るということです。10 月には、基本計画を作るための本部を、市役所に設置しました。そして先月、今月とタウンミーティングを各区で行います。

もちろん、タウンミーティングで終わりではありません。もっと少人数で、もっと市民の皆さんに深い議論をして頂くワークショップを、１月から５月に実施していきます。

その上で計画の原案を作りまして、この原案を審議会にかけます。審議会というのは、まちづくりの専門家や、学識経験者の方が入る会議でございますけれども、この審議会にかけて、23 年の２月ぐらいまで議論をして頂きます。

そして、再来年の２月にある程度の案をまとめて、パブリックコメントという、すべての人に広く意見を求める手続きをしたうえで、６月に計画策定となります。

これぐらい時間をかけますのは、この基本計画の中に、市民やいろいろな方の思いを入れるというのも大事ですし、それ以上に、この基本計画をつくる中で、市民の皆さんがこのまちをどういうまちにしていきたいかということを、それぞれが考えて話し合う、そういうプロセスこそ、最終的には千葉市の将来に生きてくると考えて、計画を作るだけでなく、まちづくりの気運を盛り上げる、そういう位置づけも考えているからです。

それでは、基本計画をつくる上での、本市を取り巻く状況について説明します。

社会経済情勢の変化は、先ほど申し上げたとおりです。

人口について申しあげますと、まず、千葉市というのは人口が増え続けてきたまちですが、やがてピークを迎え、それから減るというのが明かになっています。今は人口 95 万 6 千人ほどですが、それが 27 年度には 97 万人ぐらいまで増え、それから減少して、47 年には 88 万人にまで減るという予測が出ています。

千葉市では特に、人口減少の影響が大きいと思います。全国の県庁所在地の中で、戦後、これほど急激に人口が増えたまちというのはありません。ということは、急拡大が終わったときの衝撃が最も大きいまちということになりますから、人口減少に照準を合わせたまちづくりをしていかないと、あとで大変なことになってしまいます。

そういうことから、人口減少を正しく捉えていかなければいけないと思っています。

同時に、少子高齢化が進んでまいります。65 歳以上の方の割合は、平成 17 年度で 16.6%でしたが、これが 27 年度には 25.1%、47 年には 33.2%になり、３人に１人は 65 歳以上になるという、そういう社会になると予測されています。

これにともなって生産年齢人口、働く年代の人口ですが、これが減っていきます。そうなると何を考えなくてはならないか、ということです。

高齢者が増えるということは、当然、高齢者福祉の予算も増えていきます。まあ増えていくんですけれども、そういったマイナスのことではなく、65 歳以上の方を今までのように位置づけるのではなくて、まちを元気にするための貴重な人たちだと、まちづくりのインフラだと、そう考えることが必要になってきます。

難しいというか細かいんですけど、これは、社会保障の費用、医療、年金というのが、この間どう増えてきたかというグラフです。これは国のものですけれども、見て頂ければわかる通り、ずっと増え続けています。

見て頂きたいのは、この黄緑色の折れ線グラフです。これは国民の所得に占める社会保障費の割合ということで、この間、経済成長しましたから、所得も増えてきたんですけど、それ以上のスピードで、社会保障費が増えているということです。自分たちのお金の中で社会保障費に出さなきゃいけない割合、社会を維持するために出さなきゃいけないお金の割合は、これからも増えていくだろうと予想されます。

それをある程度ならしたものが、この棒グラフです。年金も増え、医療も増え、福祉も増える、これからも増え続けるということです。社会を維持するための費用を、ある程度とられてしまう。そういうことを踏まえ、これからのまちづくりを考えていかなければいけないということです。

千葉市の財政状況について、申しあげます。教育、子育て、緑、いろいろありますが、これにはお金が必要になります。

千葉市は、政令指定都市になって 17 年目を迎えます。政令指定都市になってから、非常に急ピッチで、都市の基盤、これは道路とか下水道とかですが、そういったさまざまな施設の

整備をすさまじい速度で進めてきました。それである程度、都市基盤は充実しました。例えば下水道は、普及率が 97%を超えておりますけれども、これは政令指定都市になって 17 年で、今の政令指定都市の平均よりも優れています。先に政令指定都市になったところに追いついている、そういうところはあります。

しかし借金は１兆円を超え、一気に増えてしまいました。今、来年度の予算編成をやっているんですけれども、全然お金が足りないと、本当に危機的な状況で、270 億円もお金が足りない、このままじゃ予算が組めない状況になっています。このままの状態で進めますと、実質公債費比率、これは１年の収入のうち、どれぐらいを借金の返済にとられてしまうかという、首が回らない度を示す数字ですけど、それがもう少しで、平成 24 年度にはこの青のグラフのように 25%を超えてしまうと、そういう見込みになっています。

25%を超えるとどうなるかですが、早期健全化団体に指定されます。これはどういうものかと言うと、早く健全にならないと危ない自治体です、という指定をされます。言ってみればイエローカードですね。夕張市は、財政再生団体というレッドカードを貰っていますけど、千葉市も、このままだとイエローカード、大都市の中で、最も早くイエローカードを出されるまちになりそうだ、ということです。

これではいけない、ということで、この赤いグラフのように 25%にいかないようにしなければいけません。いろいろなものを見直して、なんとか赤のグラフのようにできないかと、今、必死に方向転換をしなければいけません。

では、具体的に、その財政をどのように立て直そうとしているのか、ということについて、お話をさせて頂きます。

私は、10 月に「脱・財政危機」宣言を出しました。このままでは本当に危ない、ということで、財政を健全化しなければいけないということで話させて頂きます。

具体的には、まず収入を増やすために、市税の徴収率を上げなくてはいけません。千葉市は政令指定都市の中で、最も税の徴収率が低いんですね。ダントツに低いんです。それは、お金を納めて貰わなくてはならない人に、ちゃんと納めて貰っていなかったということです。逆に言えば、真面目に払っていた人にとって、不公平な状態が放置されていたということです。

もちろん、払いたいのにお金がなくて払えない人には、分割とかのきめ細かい措置をとらなくてはなりません。しかし、払えるのに払っていない人に、納めて頂くのは当然のことです。それを今まで、努力が不足していたということですので、千葉市は最近力を入れているのですが、さらに力を入れて、ちゃんと納めて頂いて、不公平をなくしていこうということです。これだけでも億単位の増収になります。

それから、持っている土地などで使っていないものは売却もしていきますし、持っている施設で役割を終えたものや、必要性の薄いものは、民間に委ねていかなくてはなりません。

それから、受益者負担の適正化ですが、これは、要するに値上げです。値上げといっても、とんでもない金額にするとか、そう申し上げているのではなく、適正な料金を貰わなくてはいけないということです。例えば下水道料金ですけれど、これは他の指定都市と比べてだいぶ安いほうに入ります。こういうものについて、もう少しお金をとらせて頂いて、なんとか

後世に残していきたい。それから、例えばコミュニティ施設も、千葉市は無料です。他の指定都市をみると、無料のところは半分ぐらいです。別に１万円とか５千円とか、たくさんお金を取るということではありません。でも、電気代ですとか、使用するにあたっての最低限の料金は貰わないと、コスト意識も持って頂けないんじゃないかと思いますし、他市より高いお金を貰うつもりはありませんが、適正な料金を取らせて頂きたいということです。

タウンミーティングで以前に、なんで、経済を発展させて収入を増やすということが書いていないんだとご指摘を頂いたことがあるんです。なぜ「脱・財政危機宣言」を出したかと言いますと、これは平成 24 年までのここ３年くらいが危ないから出したんですね。経済を振興させるというのは、もちろんやらなければいけないことですし、やっておりますが、こういうことが花開くのは、５年先、10 年先の話なんです。残念ながら、今は目先が大事ですので、目先の収入が増えることしか書いていないということです。そのようにご理解ください。

で、次に、支出を抑制しなければいけないという話です。まずは、人件費を見直さなければいけないということで、先ほどお話したように、市民の皆さんにある程度の負担をお願いするのであれば、まず自らが身を切らなければいけない、そうでないと納得して頂けないだろうと思っています。私と副市長の給料は、既に 10 月から大幅にカットしておりますけれども、私や副市長だけが頑張っても意味がありませんので、市役所全体として、来年度から人件費の見直しをする、そういうところに取り組まざるを得ないだろうと考えています。

それから、民間機能の活用ということです。民間企業でできることをやっていないか、民業をむしろ圧迫するぐらいやっていることはないか、とか、民間がやるべきことを市がやるとかを、こんな財政危機の時にやってはいけないと思うので、民間でできることは極力、民間に委ねていく、民間の知恵を活かせるものは、知恵を借りていく。そういうことを、やらなくてはいけません。

それから、外郭団体です。国でも、仕分けなどで天下りの話が出ましたけど、同じように、千葉市も外郭団体を抱えています。その中には、役目を終えた団体もあります。そういうものについては、統廃合していかなければならない、ということです。それからそこに、市の OB が行っております。私は、市の職員が外郭団体に行くこと、まあ広い意味で天下りですけれども、それをすべて否定しているのではありません。市のことをよくわかっている人、能力の高い人が、退職後、それなりに安いお金で働いて頂けるということには、それはそれでメリットはあります。しかし、OB を受け入れるためにポストを作っているケースがあるとするならば、それは厳しく見直さなくてはならないと思います。

それから、事務事業の徹底した見直しということです。国の事業仕分けが終わりましたけど、千葉市でも同じようなことをやっております。これは 44 事業を対象として洗い出して、外部の方、これは市長をやられた方ですとか、県の部長をやられた方、それから学識経験者の方ですとか、そういう方に入って頂いて、事業を外部の目で見て頂きました。そういうもので、事業を徹底して見直していくということです。今までは、事業を増やす、仕事を作ることが市役所の仕事でしたけど、もう一度立ち返って、ゼロベースで事業を考え直していかなければならないということです。

それから、公共事業の厳選ということです。公共事業もある程度抑えていかなければならないんですけど、ゼロにするわけにはいきません。それは地元の建設業者の方のためというのもありますし、まちの発展も止まってしまいますから、ある程度進めなければいけません。

そのときの考え方は、もう少しで、例えば道路が開通するとか、もう少しで、例えば建物が建つとか、そういう、もう少しで効果を発揮できるものに、よりお金を配分していこうということです。逆に言えば、例えば土地の買収率がまだ５％にしか過ぎないですとか、もう 20 年、30 年かかってしまうものに関しては、財政が厳しい間の何年間は凍結して、そのぶん、他のものに振り分けるしかないだろうと、そういう厳選、取捨選択していかなければならないということです。

そういうことをやるための計画、これは行政改革推進プランという、行政改革をどうやっていくかという計画、それから財政健全化プランという、こちらはどうやって財政を健全化するかというプランを、今年度の末までに策定し、公表する予定です。こうやってなんとか、先ほど申しあげましたように、早期健全化団体、イエローカードを貰うのを食い止めなければならない、ということです。

では、具体的に何をしていくかということです。計画の期間は、来年度から平成 25 年度までの４年間です。

まず、計画的に財政運営をしましょうということです。こうなったのは財政運営の見通しが甘かったということですから、ちゃんと計画的に、財政運営をしなければいけませんということです。

それから、簡素で効率的にしなくてはならないということです。民間がもうやってることをやったりとか、役割を終えているのに、惰性でやっている事業を見直して、もう一度スリムな体に戻りましょうということです。

それから、財政基盤の強化ということです。体力を着けなくてはいけないということで、しっかり収入が入ってくる、足腰を鍛えましょうということです。

それから、市民とともに運営していく、市民に信頼される行政になろうということです。こういう厳しい中にあって、活用できるのは市民の皆さんの知恵と力でありますから、市民の力をどれだけまちづくりに発揮できるかということです。

それから、市民の視点で行政サービスを見直そうということで、利用者の視点に立って、現場目線で、見直していく。そのためには、新たな体制を作っていかなくてはいけません。今までのように、市役所の机の上で何ごとも決めるのではなくて、この区役所であったり、現場の、皆さんの意見に接する場所で意思決定できるように、もっと、現場に権限と予算を出していかねばならない。そういった意味での区役所機能の強化ですとか、そういったものをやらなくてはならないと考えております。

そして最後に、申しあげたようなことをするために、なくてはならないのが職員ということは間違いありませんから、その職員の能力、意識、モチベーション、そういったものを、市民の信頼に応えられるように、見つめ直し、改革していかなくてはならない、ということです。

ここからが、本題です。そういった前提の中において、今日、皆様とお話したいことは、これからのまちづくりについてであります。

これからのまちづくりは、今までとは考え方を変えなくてはいけないと思います。

今までどうだったかと言うと、まず国が決めて、その下で県が決めて、そしてその下で市が決めて、市が決めたことを自治会なりにお願いしていたと、そういう、上から下への流れだったと思います。

今、国では地方分権の議論をしておりますけれども、私は、あれも本当は間違っていると思うんです。あの議論では、国がやっている仕事のうち、どれを県や市に下ろせるか、という話になっています。それはおかしくて、本来であれば、行政の仕事を、国、県、市の垣根を取り払って並べてみて、まず、市民に近い市がどれだけできるか、ということをまずやって、市ができないものを県がやって、県ができないものを国がやると、こういう関係でなければいけないと思っているんです。あれは国が決めた地方分権の考え方で、本来は、プロセスが逆だと思っています。

そこで考えなければいけないのは、まず、市民がどのようなまちづくりをやっていきたいのか、ということです。やはり自治ですから、自治というのは自ら治めると書きますから、この、自ら治めるという考え方の中で、まちづくりを考えていかなくてはなりません。

当然、個人の力には限りがありますから、個人ができないことを地域のコミュニティが支えていく、そして地域のコミュニティができないことを市がやり、市ができないことを県がやり、県ができないことを国がやるということです。こういう考え方に立たないと、いつまでたっても、お願い行政と申しますか、主従の関係が続いてしまいます。そういうことではいけませんから、申し上げたような考え方に立って、これからのまちづくりを考えなくてはならない、ということです。

今日、どういう議論をしたいかということです。10 年後、これは 20 年後でもいいと思いますけれども、そういう将来を見据えて、千葉市がどういうまちになれるか、ということです。千葉市の魅力とか、千葉市が全国に特徴を見せていくためには、何に力を入れていくべきかとか、要は、すべてにお金を注いでいくことはできませんので、どこに選択と集中をしていくべきか、そういったお話がしたいと思っています。

それから、ここには書いていませんが、市民の皆さんが、どれだけまちづくりをできるか、ということです。行政が全部やってしまうと、行政というのはコストが高いですから、市民の皆さんがどれだけできるか、そのためにはどのような制度を作らねばならないのか、行政がどうサポートしなければいけないのか、そういった、市民がまちづくりを本当に考えて、支えていくためにはどうすればいいかなどを、議論したいと思っています。

ですので、ぜひそういった観点から、ご意見を頂戴したいと思っております。

■意見交換

【鈴木企画調整局次長】

これからのお時間は意見交換となりますが、できるだけ多くの皆様にご発言頂けますよう、恐れ入りますけれども、お一人様３分程度を目安に、簡潔にご発言頂けますよう、お願いしたいと存じます。

また、ご発言の前に、お名前を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。それから、30 秒前になりましたら、事務局から、こういう合図を出させて頂きますので、話をまとめて頂きますよう、お願いいたします。

それでは市長、進行をよろしくお願いします。

【熊谷市長】
それでは、だいたい３名くらいまとめてご意見を伺って、私の方からお話をさせて頂くスタイルで進めたいと思います。その際、最初に伺った方のテーマで、ある程度絞っていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。
それでは、トップバッターの方、どうぞ。

【市民 A】
今、市長さんが仰ったことは、全部正しいと思います。でも、実際にやるのは無理だろう、できないだろうと思っています。
なぜかと言うと、千葉市がやった事業仕分けですが、44 事業のうち外部評価委員は 15 事業を廃止としましたが、請願で、議員の全会派が賛成して、市長さんのやりたいことを否定したわけです。54 人の議員さん全員を敵に回しているわけですから、まず無理だろうということです。市長さんと議員さんの関係は、二元制ですから、両方強いわけです。ということは、平行線が続いて一向に改革は進まないだろうと思います。
シルバー入浴券にしても、２万２千人に券を配っていると、それは国が補助金を出しているから継続していると。このように、国が補助金を出しているから継続、ということなら、結局、財政破綻するだろうと思うわけです。ではどうしたら良いのか、ということですが、事業仕分けでカットする、というのではなくて、どれを残した方が良いのか、評価委員は優先順位を議論しないといけない、ただ削るだけでは、と思います。
そして、決定したものを議会が覆すわけですから、議会に対して何かしなくちゃいけません。私なんかは、議員全員を辞めさせる方法はないか、と思っているんです。二元制ですから議会には何も言えませんと言われればそれまでですが、そこを考えないと、同じような請願ラッシュが来ると思います。

【熊谷市長】
ありがとうございます。
いきなり核心を突くご意見でしたけれども、そうしましたら、議会、あるいは事業仕分けについてご意見のある方、挙手をお願いします。

【市民 B】
私は市長さんを熱烈に応援していますが、反面、期待しておりません。理由はなぜかと申しますと、先の議会で、市長さんの給料を下げるという案件が、継続審議になりましたね。２回目で通りましたけれども、その際も、小学生が聞いたら呆れるような、意地悪があったと聞いています。議会が市民目線を持っていないんですね。市長さんは、わからずやの議会を背負って、これから頑張らないといけないんです。
資料の 18 ページに、目指すべき姿がありますね。これは理想だと思います。でも、市民から持ち上げるといっても、選挙に 2/3 の市民は行かない、眠っているわけですよ。市長さんが当選したのは、大変失礼ながら、前市長さんの逮捕を受けてのラッキーパンチです。そのラッキーパンチが当たったから、眠っていた人たちが起きて選挙に行って、投票率が上がっ

たんです。眠っている人を、叩き起こさなきゃいけない。それが、市長さんの役目だと思います。そういう意味では、「脱・財政危機」宣言ですけれども、あれは「脱」を付けない方がいいです。「財政危機宣言」としなければ、眠っている市民は起きませんよ。

10 年後のまちづくり、というお話でしたけれども、その前に、絶対に第２の夕張にしないと、約束してもらいたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

もう１人、ご意見を頂きたいと思います。

【市民 C】

意見は今の方と同じです。先日、水道委員会を、抽選で当たって傍聴させて頂きました。そうしましたら、自民党議員が名を連ねて、やっと先日、事業仕分けで廃止となったお風呂券の廃止に反対して、請願で、どうやら復活しそうなんです。憎き自民党、と思ったんですけれども、議員がおしゃべりばかりしていて、古参の人も真剣に勉強していないようでした。

そんな人に入れたのはどこの区かなと思いながら、議会傍聴に、毎日のように行っています。でも、席が 90 席あるのに、傍聴が３、４人しかいない時があるんです。市長さんの就任時は、傍聴者がいっぱいいたのに、今はパラパラとしかいません。ですから、緑区の皆さんも、ぜひ議会傍聴に行ってください。回し者じゃないけど、真剣にそう思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

今のお話の前提がおわかりにならない方がいらっしゃるといけませんので、少しお話しますと、先日の事業仕分けの時、シルバー健康入浴事業という事業が、対象になりました。このシルバー健康入浴事業は、65 歳以上の独居の高齢者を対象として、市内の銭湯を利用する券を、週１回ぶんくらい、合計 54 枚お配りしているものです。全体で６千万円くらいですが、国の補助があるので、市の持ち出しとしては約６～７百万円という事業です。

ここで、銭湯のある区が偏っているので、不公平だという話だとか、あるいは、入浴そのものにお金を出すことが必要なのか、銭湯の経営を助けることが、もはや主目的になっていないか、などの意見が外部の方々からあって、事業仕分けでは、廃止が妥当だろうというご意見を頂いたわけです。

われわれはそれを受けて、これから予算編成にどう反映させていくかというのが、また別の話としてあるんですが、やはり、それを楽しみにされている方がたくさんいらっしゃるのも事実ですから、そういった方々から、廃止しないでという請願が議会に上がってまいりました。それで、先日の委員会で、議会の皆様は全会一致で、見直しは一部しなければいけないけれども、原則として残す方向で考えるべき、というご意見であったわけです。

国会の多数派で内閣を組織する国の議院内閣制と違い、地方は二元代表制で、アメリカの大統領制のようなものですから、私がすべてできるわけではなくて、私が決めたものを議会に了承して頂いて、初めて実行に移せます。それが、市長と市議会の関係です。そういう意味で、非常に難しいところがあるわけですけれども、そういう制度になっておりますから、

やはり議会の意見を優先、配慮しながら、やっていかないといけません。

ですから、私と市議会で、どちらが民意に近いことをやっておるかということは、やはりそれなりに議会に注目して貰わないと、わからないと思います。議会は遠いですから、なかなか行くのが大変でしょうけれども、市民の皆様には、もっと議会を見に来て頂いて、これは別に、私が正しいからとかそういうことではなくて、傍聴して議論を聞いて頂いて、お考えになって貰いたいと思います。１年半後に市議会議員選挙がありますので、その時に、皆様のご判断で、最も望ましい方をお選び頂ければよろしいのかと思います。

投票率が低いとですね、当然、今ある利益に関与する方が投票に行きますので、利害関係の少ない人が選挙に行かなければ、政治は変わらないと思います。そういう意味では、われわれも投票率の向上に、努めていきたいと考えております。

「脱・財政危機」宣言については、そうですね、財政非常事態宣言とか、財政危機宣言とかが本当だろうと思います。それくらい危ないんです。ただ、市外にも報道されるものですし、大丈夫だと、この千葉市は大丈夫だと言わないと、いろいろと不都合があるので、あえてポジティブに脱出するぞという決意を込めて、表現しました。

ただ、そう気を遣って緩やかな表現にしたんですけれども、甘かったかなという節もありまして、未だにおわかり頂いていない方もいらっしゃいます。ですので、どちらが良かったのかなと、私自身、正直悩んでいるところはあります。いずれにしても、千葉市がネガティブに捉えられるのを避けたかったがために、「脱」をつけたと、そういうことでございます。

それでは、またテーマを自由にいたしまして、ご提言を頂きたいと思います。

【市民Ｄ】

財政について聞きたいことがあります。

この財政危機に際してはですね、今日も、料金値上げの話がありましたし、その他にも対策があるのでしょうが、この財政というのはですね、市民一人ひとりの問題だと思うんです。まちづくりは市役所だけがやるものではなく、市民一人ひとりが自分のこととして取り組まなければ、最終的には増税することになってしまうのではないでしょうか。

財政危機に際して、市民一人ひとりが何かをやることで、市の財政を良くできるのではないでしょうか。ごみの量を減らすのは小さなことだと思いますし、そのために例えば、どんなことが考えられるでしょうか。私自身にはイメージがありません。市民がこういうことをやると、市の財政再建につながりますよとか、具体案があれば、市から市民に積極的に発信してはいかがでしょうか。その準備がおありですか。

【熊谷市長】

はい、ご意見をありがとうございました。この点については、先にお答えしておいた方がいいと思います。

仰られたようなことを今、とりまとめている最中です。12 月 15 日付の市政だよりに入っておりますが、例えば、ごみのお話を頂きましたけれども、千葉市はごみの 1/3 削減を進めております。10 月 1 日からごみの収集体制を変え、ご迷惑をおかけしたところでございますが、あれの目的は、古紙の回収を増やしたい、雑紙の回収を増やしたいということです。ちなみに、雑紙の回収をやられた方、この中にどのくらいいらっしゃいますか。結構いらっし

ゃいますね。

今の状況ですと、とにかく、燃えるごみの削減を進めなければなりません。これはどういうことかと言うと、千葉市には、ごみの清掃工場が３つございまして、そのうち１つを、老朽化により建て替えなければなりません。この建替えに、180 億円かかります。こんなお金は出せません。ですから、燃えるごみを 1/3 削減すれば、なんとか２工場でいけますので、建替えをしなくてよくなります。

このことがまず大きいですし、また、毎年、ごみの焼却には 10 億円以上のお金がかかっていますから、この費用も下げることができます。あと、焼却後に出る灰を埋める最終処分場も、今のペースで行くともうまもなく埋まってしまう状態ですが、新たな最終処分場を作るとまた 10 億円かかるということで、ごみの量を減らすというのは、何百億円が別の形で市民に返ってくるという事業です。ですから、燃えるごみの 1/3 削減には、ぜひともご協力をお願いできればと思います。

他にも、市民の皆様に公園、道路の清掃をやっても頂ければ、それにかかるお金を、福祉などに回すことができます。

それから、もっとわかりやすいところで言うと、今、たばこの増税の話があります。この中でたばこを吸う方はどれくらいいらっしゃいますか。なるほど。たばこを吸う方は、ぜひ千葉市で買ってください。１箱 300 円のうち 65 円が、千葉市に納められます。ですので、東京都内にお勤めの方も、ぜひ、市内で買って下さい。千葉市の１年間のタバコ税は、60 億円くらいです。１割増えれば６億の増収になります。吸わない方に吸えというものではなく、同じ吸うんであれば、千葉市内で買って下さいというお話です。

他にも、宝くじも市内で買って下さいとか、市民の皆さんにできることは色々あるんです。一番良いのは、まちづくりを直接お支え頂くことなんですけれども、それ以外でもちょっとした皆さん方のお考え、お気づきで変わるものはありますので、４月以降に予算が出ましたら、改めて、わかりやすい形でお伝えしていきたいと思います。

少し長くなりましたが、財政のお話で、もし他にご意見があればご発言下さい。

【市民 E】

要点だけ申し上げます。まず、受益者負担にする事の洗い出しをして、財政を見直す。具体的には、救急車の使用です。救急車をタクシーと同じように使用している不逞な輩がいます。これは有料化すべきです。それから、社会福祉協議会で車椅子を無料で貸していますが、これも有料化です。

それから、今、ごみの処理袋が、１枚いくらだと思われますか。30 円よりもっと安いです。これはおかしいです。ごみを少なくするという話がありましたけれど、ごみ袋を高くすれば、ごみは当然少なくなります。しかも、そのごみ袋を買ったお金が、今は市に入っていない。これは業者から取り上げるべきです。

それから健康診断です。われわれシニアの健診料は、２年に１回で 500 円です。これは安すぎるでしょう。年寄りを甘やかしちゃだめです。これをやったからって首をくくるような人は、この会場には１人もいませんよ。いろいろな問題はありましょうが、受益者負担をしっかりと洗い出してほしいと思いますね。

それから、これは違う話ですが、多文化共生についてです。市長はお若いから、この言葉はご

存知だと思います。現在、千葉市には外国人登録者が２万３千人います。年間 1,500 人くらいずつ増えています。で、共生できないのは、言葉、文化、慣習が違うからだと思います。そこで、千葉市の国際交流協会には、シニアと呼ばれる会員がいっぱいいるんです。その人たちを無料で使えるんです。これはお金のかからない話ですから、これを大いに有効に使って頂きたいと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございます。他に、いらっしゃいますでしょうか。

【市民 F】
これからのまちづくりに向けて、われわれは何をやったらいいのかという事を申し上げたいと思います。

まず、従来の上から降りてくる中央集権型の市政のあり方には、問題があると思います。もっと市民の意見を吸い上げてほしいと、前から思っていました。幸いにして市長が当選されて、マニフェストの中に、中央集権から地方分権へ転換していきたいとありましたので、私は大変良いことだと思いました。

ただ問題は、まちづくりと言っても、われわれは何をやったらいいのかということです。一人ひとりが財政問題などに目を奪われて、結局、今までのような上からのスタイルで、やってもらう、要望を叶えてもらうということに慣れてしまって、自分から行動するということが弱いんです。そこをクリアしないと、せっかく、こういう素晴らしい場を持たれ、基本計画を策定されても、住民が付いていけなければ、まちづくりはできないわけです。

そこで小さな実験ですが、私たちはおゆみ野で、今年の３月 14 日にまちづくり協議会をスタートさせました。参加者は交通、児童、環境をテーマに、３部門にわかれて活動しています。この活動を、地域に徐々に浸透させていき、一緒に行動する人を１人でも２人でも増やしていくと、いう事をやっていかなければならないと思っています。そうしないと、市の財政再建がある程度目処が立って、いよいよ下からの声を市が吸い上げて、地域でやろうというスタートの時に、実現しないわけです。われわれは訓練期間中という事で、こうした実験をしていますので、行政のご協力なり、アドバイスを頂きたいと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございます。もうお一方、お願いします。

【市民 G】
先ほど、21 年度に財政健全化計画を立てると、そのように仰いましたが、それはプライマリーバランスの健全化計画と、そう考えてよろしいですか。もしそうなら、そんなに簡単にできないと思います。３年くらいかかると思います。できないことを、そう言うもんじゃないと思います。もっと、こういう組織でやりますとか、そっちの計画の方が、まず大事だと思います。

それから、先ほどから市民一人ひとりがと仰いますが、個々には考えがあっても、１人では進めにくいと思います。千葉市にはありがたいことに自治会がありますから、自治会長さんにお話

をして、それを各区でお話をすると。例えばごみの問題にしても、われわれがごみを運んでもいいわけですよ。いや、これは極論ですけど。ですから、そういう部分を、やはり自治会に委託しないといけないと思いますよ。自治会があるんだから、利用したらいいと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

まず救急車のお話ですが、最近ましにはなりましたが、まだ厳しい状況です。

それから、ごみ袋の有料化についてのご意見とお伺いしましたが、千葉市では、料金を上乗せしていません。が、他市で最近広がっている動きに、ごみ袋の有料化があります。１リットルあたり１円とか２円とか上乗せして、ごみ袋を高くするんですね。そうすると、ごみを増やさないようにしようという圧力になり、また市の収入にもなり、そのお金でごみ処理の費用を捻出できますので、多くの自治体が導入し始めています。

ただ、非常に難しい状況にあります。実は、指定袋になっただけで、なんでスーパーの袋で出しちゃだめなんだと、毎日のように市長への手紙でも意見が来るんです。そういう状況ですので、ごみの有料化に向けては、まだハードルが高いと思っています。

今回、ごみの収集日の変更の際に、燃えるごみの収集日を、週３回から週２回にしました。ちなみにですね、週３回も燃えるごみの収集をする自治体を探す方が、むしろ難しいくらいで、千葉市というのは、ごみに関して非常に楽なまちだったんです。でもそれは、千葉市以外に住んだことがないとわかりませんから、市民サービスの低下だと言われて、非常に苦しい船出だったわけです。

そういうことで、このごみの有料化に関しては、このまま行ったらどうで、有料化したらどうで、成り立たなくなるのかどうか、また他市はどうしているかなど、情報をしっかりとお示しをした上で、市民の皆様が、しょうがないね、と思って頂ける時が、ごみ袋の有料化を考える時だと思っています。いずれにしても、市民の皆様に議論をして頂いて、判断をして頂く時が来ると思います。私としては、いずれ避けては通れない、問題だと思っています。

それから、まちづくりのお話がありました。まさに、仰ったまちづくり協議会のようなものが、すべての地域にできることが理想です。私も自治会の役員をやっておりましたので、自治会が基本であることは間違いないと思いますが、おそらくもう、自治会だけでは成り立たない状況になっているんだろうと思います。ですから、自治会とか、関係の方々が入っている、まちづくり協議会のような担い手の組織を、どれだけ作っていけるかが大事だと思っております。

われわれとしても、サポートをさせて頂きます。そうした組織にどんなサポートが必要なのか、いろいろとご意見を頂きながら勉強させて頂き、10 年後には、そういうグループを千葉市中に張り巡らせることで、千葉市の活力、下からの声が、湧き上がるようにしたいと思っています。

それから、財政健全化プランについてのお話がありました。これは、今後５年間でどのくらいお金が足りないか、そして、それをどのように捻出するかという計画でございます。仰るとおり、本当に厳しいです。難しいです。この３年から５年くらいは本当に厳しい時期ですので、綱渡りのような状態で、やっていかねばと思っています。

ただ、イエローカードを貰うことは、絶対に避けなければなりませんので、あえて困難な

所に突っ込んでいかねばならない、そういう状況にあります。困難であることは、われわれも十分認識しております。ですから、担う組織、考える組織、それらを含めてすべて見直していきたいと思っております。

そして、自治会をもっと使うべきだという、ご意見がありました。仰るとおりで、これからは自治会なり、あるいは先ほどのまちづくり協議会なり、個人で取り組むことはなかなか難しいですから、そういう組織をつくってお願いをしていくと、そういう地域分権が必要になってくると思います。

その中では、すべて無償というのは無理でしょうから、市がやるよりは割安だけれども、有償ボランティアのような形も、それがまちづくり組織の活動資金にもなるでしょうから、そういった形でやらなければならないだろうと考えております。

それではまた、新たなテーマで、ご意見を頂きたいと思います。

【市民 H】

市が提唱している、ごみの 1/3 削減に関わっています。ごみを削減するためには、生ごみ処理を各自がしないといけないと思いまして、いろいろな方に話すのですが、面倒くさいとか、嫌だと言われてしまいます。

それで、公民館で講習をやりたいのですが、人が集まらないから駄目と断られてしまいます。昨年１度、千草台団地の公民館で講習会をやったきりです。できれば、市にバックアップして頂いて、少しずつ、生ごみ処理の必要性を広めていきたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

そうしましたら、ごみと環境問題について、ご意見を頂きたく思います。

【市民 I】

生ごみを含めて、ごみというものは活用方法があるので、ごみを「資源」と考えるよう、考え方を改めて貰いたいと思います。そうすれば、活用の方法があります。

今、３箇所で焼却をしておりますが、その熱の利用の仕方が、甘いと思うんです。あの熱を地域の冷暖房に活用できないか、特に新港の方は工場地帯にありますので、その蒸気の活用の仕方を考えて頂ければ、かなり財政的にも負担が減るんじゃないかと思います。

それと、先ほどの方が生ごみの処理のことで仰いましたが、生ごみを利用できる人と、利用できない人がいます。ですから、処理を奨励するには、できた堆肥とか堆肥の元になるものを、市が集めて堆肥化して、希望者に販売するような仕組みが必要かなと思います。希望者はいるんです、組成がはっきりしていれば。市が集めてならして、組成を分析してはっきりして頂ければ、農業団体でも何でも、使って頂ける可能性があるわけです。そのような、システムづくりを考えてもらいたいと思います。そうすればごみの量は減らすことができます。

【熊谷市長】

ありがとうございました。もう一方、お願いします。

【市民 J】

市では、10 月から燃えるごみの回収を少なくして、古紙の回収を増やしましたよね。でもまだ、段ボールや雑誌が燃えるごみの日に出されていても、ごみの回収業者が持って行ってくれてしまっています。電話をして、段ボールや雑誌は古紙の日に出すものだから持っていかないで、シールを貼ってと伝えても、業者さんによって、やるところと、やらないところがある状況と言われました。このあたりを徹底すれば、燃えるごみは減るだろうと思います。

生ごみ処理機についてですが、ずっとやりたいと思っていたところ、畑もないし、処分するところがないのでためらっていたんですが、おゆみ野の森を育てる会の堆肥場に持っていけば、埋めてくれると知りましたので、最近やりはじめました。このようにやりたいと思っていても、一人でどうしようと思っている方が多いと思いますので、そこの対策を考えて頂けると、ごみはもっと減ると思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、生ごみの処理についてです。仰るとおり、生ごみを減らせば、そのぶん、ごみの量は減らせます。一部モデル地域で、生ごみの処理に取り組んでおりますが、やはり面倒だという理由で広がらない、ここが問題なんだろうと思うんです。ですので、今度２月から、市政だよりの中に、ごみのコーナーを設けることにしたんです。そこで、ごみの減量が今どうなっていて、どのくらい減らさなきゃだめなんだとか、そもそも何で減らさなきゃならないんだとか、あるいは他市がどうしているかですとか、そういった、ごみにまつわるさまざまなお話をしていこうと思っています。

今まで、そういったお話をしてこなかったと思うんです。ごみを捨てれば市が処分してくれるのが当たり前で、そこにいくらかかっているかとか、自分のお金、税金ですね、それがいくらかかっているのかとか、そういったことを意識して頂けなかったと思います。そのようなことで、まずごみに関する情報をお出ししないと、ごみの問題を自分の事として意識して頂けないのかな、というところがありましたので、１年間くらいかけて、広報していく予定です。ごみを減らせば、そういったところにかかっていたお金が、別の形で返ってくるわけですから。そこをまず、理解して頂こうと思っています。その中で、生ごみ処理にも関心を持ってもらえるようにしたいと思います。思いますと申しましたが、そうしないともうまずい、という状況でございます。

それから、「資源」にごみという表現から改めるべきというご意見は、その通りだと思います。私も新たな表現に変えたいと思っています。それをもう、担当部署に指示しております。ごみと言うからいけないんです。紙資源とかですね、そういう表記にしようと、考えておるところでございます。

焼却場の熱の利用ですが、これは今でもやっておりますが、甘いというご指摘を頂きました。ここはコスト面との兼ね合いがございますので、皆様のご意見を聞きながら、やっていきたいと思います。

それから、生ごみに関しまして、処理した後の堆肥の利用先が見つからなければ、なかなか踏ん切りがつかない、というお話を頂きました。そういったことで、生ごみの処理にあた

ってのハードルがあるとするならば、その解消に向けて、ここに持ってきて頂ければ大丈夫ですよとか、そういった情報発信をしていきたいと思います。

それから、段ボールを持って行ってしまうというお話ですが、これは私も見たことがあります。燃えるごみの日に段ボールや雑誌が出ていて、それを回収してくれてしまうんですね。そこは業者任せにせずに、廃棄物推進委員も各地域にいらっしゃいますので、連携しながらやっていきたいと思います。また、今までは随意契約で、同じ業者にずっとやって頂いたわけですけれども、いずれ、入札などをやっていく必要があると思っていますので、そういった中で、ルールを守ってもらえるところを選びたいと考えます。そういったことをしないと、ごみの収集に関して不公平が生じますので、業者さんとのやり取りの中で、徹底していこうと思っています。

それではまた新たなテーマで、ご意見を頂きたいと思います。

【市民 K】

先ほど市長は、いろいろやるにはお金がかかると申され、いろいろな経費削減策を話されました。人件費の削減ですとかね。しかしおそらく、大した効果は出ないと思います。それはなぜかと申しますと、市の、金に関する感覚がですね、一般の私企業と比べまして、全然違うからなんです。一般の私企業でしたら、金は必要だから使うんです。ところが市は、予算があるから使う。余ってプールしても、罪の意識はないんですね。

例えば、今までは週３回、ごみを収集してきましたね。そのことをおかしいとも思わずに、調べもせずに、予算があるから続けてきたと思うんです。そういう状態を革新しなければ効果は上がりませんから、職員の、お金の面での意識改革を、ぜひお願いしたいと思います。予算があったら使い切る、それが実績なんだという意識ではなく、費用と効果とか、そういったことを重点に考えて事業執行しなければ、失敗すると思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

そうしましたら、職員の意識や体制、あるいは市役所のあり方などについて、ご意見を頂戴できればと思います。

【市民 L】

市役所には大勢の職員がいます。今日も、何人かお見えになっていますが、職員の仕事を見直すということで、一般の住民の目線で、見直してもらいたいと思います。組織というものは、黙っていても自然に増えるものなんですね。これはまあ、世界各国どこでも困っていることなんですが、黙っていれば増えます。そして、仕事を増やしているんですね。

でも、見ると、無くてもよい仕事がだいぶあるんですよ。おそらく千葉の市役所にも、この仕事は無くていいというのがだいぶあるはずですし、それから、要らない人もいると思います。10 年、20 年先を考えるのなら、職員の数を維持せずにですね、減らしていくことを考えてもらいたいです。上手くいけば、おそらく半分くらいにできるんじゃないですか。

それから、市長は制度上、議員のことは言えないと思いますが、議員はあんなにいらないですね。私の生まれは信州豊科町ですが、そこの町長がヨーロッパに行政見学に行ったとこ

ろ、議会は市長室でやるんだそうですね。市長室がちょっと広くて、しかも夕方からやると。しかも、お金もかかっていない、ボランティア的な議員なんだそうです。千数百万円の歳費なんか、頂いてないわけですよ。

そういう面で、10 年先を見据えて頂きたい。ぜひお願いします。

【熊谷市長】

ありがとうございました。もう一方、よろしくお願いします。

【市民Ｍ】

公民館でエコの話があって、聞きに行きました。それで、最後に何か質問がありませんかという時間に、徳島の小さな町でごみの処理機をやっていて、それを葉山町が見て、エコで気が付いたことを葉山町でやっているので、市役所の職員にそのことを言いましたら、なんて言ったと思います。「あそこは小さな町だからできるのだ」と言われ、それで終わりなんですよ。それならなんで、エコの会議を２時間も開いたんですか。

あと、ペットボトルのキャップ、あれを 800 で一つワクチンが買えるんです。調べましたら、横浜の方にそれを統括している団体がありまして、私どももやっております。けやきの会っていいますが、１年で子ども 700 人分のワクチンが買えているんです。そういうことを一生懸命やっています。

私たちはただでできること、捨てないでできることをやってるのに、市役所はエコのことをやるって言いながら、「それは小さな町だからできるんですよ」で済ますんですか。千葉市は関係ないよってことですか。本当にがっかりして帰ってきました。本当に税金の無駄です。やる気がないなら、なんで公民館借りてやってるんですか、全然意味がないです。これを言いたいがために、私は今日来ました。

【熊谷市長】

ご意見をありがとうございました。

まず、市役所は危機感覚が甘い、予算主義を改めなければというご意見がありました。確かに、民間とは違うと思いますので、今年度から、インセンティブ予算というものを導入しました。これはですね、結局、予算を削ってしまうと、予算が少ないっていうのはやっぱり嫌ですから、仕事をする以上。そこで、予算を減らすと翌年度にその半分を自由なお金として使えることにして、メリットも付けた形で、今回からやっております。そういうところから少しづつ進めていって、予算を使い切るのがいいんじゃないと、予算を使い切らなかったり、事業を廃止した人間が評価されるというように、人事評価制度とも合わせて、改革しなくてはならないと思っています。

それから、職員も議員も減らせるはずだという、ご意見を頂きました。職員は、既にもう減らしております。これからはもっと減らさないと成立しませんので、民間でもできるものは民間にお願いし、職員でなければできないものではないものは、市民の皆さんにお願いしていく、そういった形で、仕事の総点検をしなければならないと思っております。このことも含めて、行政改革推進プランの策定において考えていきます。

議会については、議長さんが記者会見されて、財政危機を受けて、議員報酬、政務調査費、

議員定数などを見直したいとお話をされておりましたので、われわれとしては見守っているところです。河村たかし名古屋市長は、議員は半分にしてしまえとか、議員はボランティアでいいんだとか、ガンガンやっていますが、それはもう議会のご判断だと思いますし、議会のご判断を受けての市民のご判断に委ねるしかないだろうと、思っております。

ちなみにですね、世界の他の市を見ると、それはニューヨークでもカリフォルニアでもそうですが、市議会の議員というのはボランティア的ですね。まあ 300 万だったり、多くても 600 万の世界でやっております。千葉市は政令指定都市ですけれども、そういったことをやることも、十分考えていくべき時にあるんだろうなとは思います。私も市議会議員だった時に、土日や夜間の議会開催を提案しましたが、議題にはなりませんでした。私としては、考えていくことになると思いますけれども、そういう意味でも、今後の議会をぜひ注目してもらいたいと思います。

それから、公民館の講座の話です。大変申しわけございませんでした。やる前から諦めてしまうのは、一番良くないことです。やってみるためには何が問題なのかですとか、そこで規模とか言い出したら、それはもう思考停止ですから、やる中でこういう課題がある、だから難しいという回答なら、たぶん、納得がいくと思うんです。頭から諦めないようにすることが肝心だと思っています。

ちなみに、ペットボトルキャップの回収については、区役所でも実施しています。

【市民Ｍ】

それは、私たちが提案したから、やってくれたんです。

【熊谷市長】

そうでしたか。大変失礼をいたしました。ご提案頂き、ありがとうございました。

私も市長に就任してから、ペットボトルキャップの回収をやったら、というご意見を聞き、市役所で始めた経緯があったものですから。

そこで思うのは、たぶん、市役所とか図書館とか、行政には人が集まるスペースがいろいろありますから、そこで、市民のための事業をやっていくことができると思うんです。そこを行政だけで考えてもだめですから、もっと民間から意見を貰うと、そういうことが大事だと思っております。

それではまた新たなテーマで、ご意見を頂きたいと思います。せっかくですので、若い方で、意見のある方はいますか。

【市民Ｎ】

先ほどのお話では、千葉市は社会増で人口が増えているとのことでしたが、緑区については、比較的自然増が多いかと思います。これは、緑区で生まれた人が、今後も多くなることを意味します。緑区は学校の生徒数も多く、友だちの数も多いということで、市に愛着のある人も多いと思います。私の周りにも、住み続けたいという人は多いです。しかし、社会に出ると市内に希望する職がなかったりして、どうしても東京や神奈川に行かざるを得ないという人も多いんです。

そこで、まあ今は不景気なので無理でしょうけど、景気が回復してきてからでよいので、

やはり幕張や中央区のエリアに、企業誘致をお願いしたいと思います。今、関西の方では、液晶パネルの工場とか、どんどん建っていると思うんですけども、千葉市にも電機メーカーはありますし、そういう可能性は十分あると思います。

緑区の場合、京葉線などで東京に通うことになりますが、京葉線は、年々、快速の停車駅が増えて、時間がかかるようになりました。それから数年前に海浜幕張駅のホームが増えてから、蘇我行きの電車が減ってしまったんです。その海浜幕張駅のホーム増設は、千葉市がやったと聞いています。もちろん、蘇我行きを減らすためではなく、JR にだまされたんでしょうけども。今後、京葉線は車両も更新され、最高速度も上がるということなので、緑区までの所要時間を短縮してほしいと思います。市がお金を出すのではなく、JR に要望してほしいということです。

それから、成田空港へのアクセスが、実際にはあまり良くないので、成田エクスプレスも停まりませんし、快速が１時間に１本しかないということで、成田空港を活かした企業誘致のためにも、JR に対策を要望してもらいたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

それでは、交通問題でご意見のある方、ご発言を頂きたいと思います。

【市民 O】

電車の話が出ましたけど、私は、住み続けたいまちのためにどんなことができるかについて、自転車で楽しく暮らせるまちを作りたいと考えています。できれば、市長と一緒に作っていこう、と考えています。

千葉市というのは、皆さんご存じのとおり、農業地域もありますし、歴史的な地域もありますし、自転車で楽しく遊べる環境があります。これを全国にアピールして、それでもって、皆さんに楽しく暮らして貰ってはいかがでしょうか。そんな事もできますし、自転車は数キロ以内なら、クルマや、電車やバスよりも早く目的地に着けるという利点があるので、都市交通の中でも、自転車を捉えてはいかがでしょうかと考えています。

その中で千葉市にお願いしたいことは、自転車が安全に走れる走行空間というものに、重点的に取り組んでほしいと考えております。で、自転車を安全に運行しようというのは、交通安全教室や、交通公園も千葉市にはありますけれども、それでいて交通事故が減っているかといえば減っていないので、それよりも走行環境を整備することによって、自転車が車道をシェアしていきながら、事故をなくしていく。そういった取組みを進めていけたら良いと、考えております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

他に、交通問題でご意見のある方、お願いします。

【市民 P】

土気、あすみが丘地域でございますが、年々、高齢化が進んでおります。それに伴い、車

を廃車にしたりする方もいらっしゃいますが、この地域は、バスの配車状況が悪いですね。まちに行くにも行けないし、他の地域にも行けないということで、これらの問題を解決するためには、やはり地域で、地域そのもので作ります循環バス、これをですね、やっていきたいと思っています。

循環バスですと、まあぐるぐる回っておりますから、まちに出るにも出やすい、病院にも行きやすいということで、非常に便利だと思います。今までのバスは点と点を結ぶだけでして、使い勝手が良くなかったです。が、地域の循環バスとなりますと、簡単に乗り降りできますから、そういった形で進んでいけば、子どもの通学にも使えますし、通院、外出にも使えます。それから主婦の買い物などにも、十分使えます。今、特に田舎の地域の方は、行きはバスでも、帰りはタクシーで帰ります。これは、公共交通がないから、タクシーで帰るのが実状ですね。

こういったものをすべて解消できますので、これをなんとか、立証したいと思いまして、まあこれは受益者負担を前提として考えておりますが、運行の方法ですとか、ルート、そして時間ですね、そういったものを今後調査し、具体化して、可能であればバス会社と交渉して、町内会と相談しながら、立ち上げていきたいと思います。

まあ足りない部分は、市から助成を貰いたいところですが、そうすることがないようにしたいと、思っています。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、市内に雇用がないというお話です。仰るとおり、われわれはこれを、考えていかなくてはなりません。土気に企業団地があって、毎年、それなりの数の企業が入っておりまして、いずれ一杯になるだろうという見込みですけれども、問題は、やはり幕張と中心市街地の部分です。ここの部分について、取り組んでいかなければなりません。幕張は、県にお任せの部分もあったわけですけれども、市としても、ある程度主体的に関わって、強化しなければと思っています。

中心市街地の部分ですが、コンパクトシティという中にあって、交通が一番充実しているのは、やはり千葉駅周辺ですから、将来的な観点から、力を入れなきゃいけないと思っています。で、千葉駅の建て替えが 10 年後にあるんですけれども、そこにあわせて、周辺の活性化に取り組んでいかなくてはならないと考えております。が、お話にあったとおり不景気で非常に苦しいんですが、そんな中でもなんとか、やっていこうと考えております。

京葉線については、これは難しいですね。われわれもいろんな形で JR に要望しておりますけれども、JR も営利企業でございますので、なかなかですね、難しいところがあります。ただ、頂いたご意見はご意見としてですね、JR にしっかりと伝えなければと思っていますので、意見は、これからも集めていきたいなと思っております。

それから自転車のお話です。これは重要だと思っています。将来的なことを考えると、自動車から自転車への流れというのは、必ず来ると思っておりますので、そのためには走行環境の整備が大事です。で、ここ数年、実験をやっておりましたので、その成果を受けて、自転車レーンを整備しなければいけないだろうと、考えております。千葉市の中でも、まず骨格となるところで、自転車の走行環境を整備したいと、計画を作ったうえで、毎年取り組ん

でいきたいと考えております。

これもお金がかかりますから、すぐにはいきませんけれども、重視していかなければいけないと考えておりますので、どこが優先順位が高いのかとか、いろいろな形で意見交換しながら、作っていきたいと考えております。

そしてバスのお話がありました。地域循環バスを、住民のお力で作りたいということで、われわれもその試みを注目しております。人口が減少するということは、今あるバス路線が、細っていくことだと思います。千葉市は市営のバスがございませんから、バスはすべて、民間のバス事業者のお考えの中で、決まってまいります。ですから放っておくと、人口減少、高齢化の中で、バス路線は細っていきます。

そのことについて、われわれも危機感を抱いております。人口が、例えば10年後、こう減った場合、バス路線はどこが危ないとか、そういう認識をした上で、じゃあどうするのかですとか、地域の方と話し合いをしなくてはと考えております。そういった状況の中、受益者負担でどうできるのか。

そういった場合の大きな先行事例として、われわれも大変注目しておりますし、市が全部コミュニティバスを走らせるのは、これはお金がないから無理ですけれども、そういった受益者負担の考え方の中で、市がいくばくかの支援はできると思いますので、われわれとしてもサポートを考えていきたいと思います。

それでは、他にご意見はありますでしょうか。

【市民Q】

安全について、お話をしたいと思います。

政令指定都市でありながら、誉田駅南口には専用歩道がないんです。毎日、児童、通勤の方々が危ない思いをして、通っている現状です。19年に事業認可となりましたが、２年と数ヶ月が過ぎながら、進ちょく率が３％から５％ということです。そして先般、住民としてあまりに不安なので、特定街路課と道路計画課をお呼びしました。自治会館に入りきらない、85人ほど集まったんですが、話を聞いたところ、予算がないということでした。事業費が45億円くらいかかるんですが、年１億ほどしか買収予算がないということでした。それなら45年かかると、それならみんな死んじゃうねと、落胆したんです。

まあ予算がなければそれまでなんですけれど、とにかく、現場が危ないんです。ぜひ、市長に現場を見て頂いて、事業仕分けの話もありましたが、優先順位を上げて頂いて、今日のテーマじゃないですけれど、10年後、20年後くらいにはぜひ、完成するようお願いしたいと思います。事業認可はされているわけですから、とにかく予算を付けて頂いて、事業の安全確保をお願いしたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

時間も迫ってまいりましたので、テーマを決めずに、お話を伺いたいと思います。

【市民R】

今のお話は、都市計画道路誉田駅前線のお話です。私は、その道路に接して、住んでおり

ます。平成４年から、市長への手紙によって、道路の拡幅をお願いしてきました。今日のテーマは10年後、20年後ということで、発言します。

冒頭、この会場の参加人数は他の区より多いと、ご発言がありました。緑区は、宝の山です。３つだけお話します。

まず、鎌取、誉田、土気とJRが通っていますが、誉田、土気の中間に駅がほしいと思っています。あの辺りは広大な調整地域ですが、農業者が高齢化して荒れたままの土地が多かったり、土地を換金できずに、困っている人も多くなっています。一方、団塊の世代といわれる人々が定年退職の時期を迎えていますが、その人たちを、この地域に迎えられるような施策が必要だと思っています。緑区は環境に恵まれて、子育てとか、あらゆる面で、人が生きるには良いところです。東京にも近い、海も近い、ゴルフ場にも近いです。この良さを活かした施策をお願いします。

次に、企業誘致です。就職の機会も増えるし、人口増にもつながるし、税収増にもつながります。

それから、市原市が隣接しているということで、やりにくいところもあるかも知れませんが、冒頭の道路に関しては、10年くらい前にアンケートをとりました。回答者のうち300人くらい、94%が、早くやりたい、協力したいということでした。年代別ですと、当時、50歳以上が75%でしたから、機械的に言うと、今はもっと高齢化しています。

時間がなくなりましたので、２つにします。とにかくまず、現場を見て下さい。市長だけじゃなく、局長クラスの人も、現場を見て下さい。

【熊谷市長】

すみません、ありがとうございます。あとお一方から、ご意見を頂きたいと思います。

【市民S】

市長は、都川の水源をご存じでしょうか。ご存じのようですので、話が早いと思いますが、５年前は臭かったんです。最近、やっとまともな川になりました。ただ、まだ地図では排水路なんです。源流地域は、西側が誉田中学校で、東側が私の住む万花台です。実際は、誉田の方から下水が来ております。先ほど市長は、下水道の整備率の話をされましたが、実際は、まだつないでない方が多いんです。これをつなぐよう、市は推進して貰いたいと思います。

最近、何回も歩いています。工事の業者によれば、最近はコイもカニもいますということでした。改善はしているんです。ですから、県庁の脇を通っているこの都川を、透き通った水にするくらいのつもりで、20年先にはやって貰わないとと思います。

この間、金沢八景に行ってきましたが、あれだけ住宅があるところの海が、２m透き通って見えているんです。いかに、下水道が良くなっているかということが、端的にわかります。

市役所は海岸沿いに移りましたから、市の方は見てないかもしれませんが、県庁の方は、あの汚い都川を毎日見ているんです。これは恥だと思います。

【熊谷市長】

ご意見をありがとうございました。

まず、誉田駅南口のお話です。市長選挙の際にも立っておりますし、それ以外の機会にも

見ておりますし、状況は十分、理解をしておるつもりでございます。しかし、お話しにありましたとおり、非常に時間がかかっております。われわれとしては、駅に近い方だけでも優先的に何とか、ということで、予算を付けておりますが、いずれにしても、全体の完成が相当先になるのは、間違いのないところでございます。

実際、そこに住まわれる方にとってはそれが最優先だということは、われわれも痛いほど理解しております。ただ、他にもですね、いろいろと道路をやらなきゃまずいという状況の中で、予算の配分を考えております。とにかく、先ほど申し上げたとおり、誉田駅南口の中でも、児童の安全を最優先に考えてやっておりますので、ご理解頂きたいと思います。

それから、鎌取、土気の中間駅でございます。できれば、個別のお話ではなくて、全体的なお話を頂きたかったんですけれども、それを申し上げた上で、お答えします。

たぶんですね、中間駅は厳しいと思います。われわれではなく JR が作るものですし、一時期と違い最近の JR は、新駅を作ることに非常に慎重になっております。幕張に新駅を作ることさえ、進まない状況です。ですから、私としても、あまり甘いことを言うわけにもいきません。たぶん、JR は新駅を作らないでしょう。それほど、最近の JR は慎重です。私してもちろん作ってほしいんですけれども、苦慮しているところです。

むしろですね、これからの時代は、駅をどかんと作る、道をどかんと通すというより、そういった事をしない中での解決を考えていかなくちゃならない、そういった時代であることも、ご理解を頂きたいと思います。

市原市と隣接しているというお話がありましたが、そこは十分、工夫の余地があるように思います。住んでいる方にとっては、行政界で地面が急に変わるわけではありませんから。まあ、そういった縦割りで、ばかな事が起こるような事が一般にはあるんですが、近隣市との連携の中で、そういったことのないよう、やっていきたいと思います。これは、県との関係においても同様です。

それから、都川のお話がありました。都川の特に上流部分では、下水だけのお話しでもないんですね。今度、環境の計画も見直しますし、いずれにしても千葉市は、緑と水に恵まれた都市でございますし、拠って立つところでございますので、そういった部分についても、時間をかけて、改善していきたいと思います。

それでは、またご意見を頂戴したいと思います。

【市民 T】

まちづくりの長期的な視点として、千葉市の中で、施設としては何を大切に考えていくかというお話をします。

私は子どもに関わる仕事をしております。子どもたちの成長という意味でも、学校図書館とか、市の図書館を、大切な施設として充実していくべきだと思います。理由として、まず、子どもの成長に関わる施設ですから、千葉市は充実している、千葉市で子育てがしたいという人が増えるような、まちづくりにつながると思うからです。

子どもたちに接しておりますと、近ごろ、子どもたちの考え方が非常に刹那的と申しますか、感情的になっていることが気になっております。例えば、フィンランドは世界一の学力を誇っていますが、そういうところは、とにかくテストの前になったら本を読みなさいと、そう指導しているらしいんです。ところが、私たちの周りでは、テストの前になったら単語

を覚えなさいと、そういうことになっております。もっと長期的に、子どもが系統的にものを見たり、論理的にものを考えたりできるように、そうするためには、学校図書館の充実が、大切になってくると思います。

また、市民生活にとりましても、今は介護にしても医療にしても、どんなやり方があって、どれが一番良いのか、自分で考えて判断しなければいけない世の中になっております。そういった時、図書館に行けば基本となる資料がある、図書館に行けば調べられるということがあれば、安心して暮らせるという事につながります。

あと、市長さんは協働と言われますが、市民が何かをしようとした時に、千葉市の過去の資料が保管されているのは図書館だと思いますから、図書館に行けば新しい考えが見つかるというふうになりますし、そういったことからも、図書館の充実が大切だと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

時間ももう限られていますので、あと５分ですね、お話を伺いたいと思います。

【市民Ｕ】

社会福祉協議会の土気地区部会では、子育て、高齢者といろいろしております。推進員が15名、ボランティアが120名おり、いろいろな事業を行っておりますが、まず、社会福祉協議会の活動拠点がないんです。公民館等あるんですが、急な打合せなどするときに、会場がありません。それから、コピー機等も設置できませんから、活動拠点がほしいと前からお願いしています。が、なかなか通りません。方法としては、今は空き家がありますので、そういったところを開放して頂けるといいかなと、考えております。

あと、相変わらずハコモノを作るのがお好きなようですが、土気にも、いきいきセンターが来年から開設されるようです。担当は高齢福祉課ですか。そこに集会室ができるようですので、そこにフリーサロンができるよう、お願いしたいと思います。高齢者サロンと、子育てサロンが併用できるよう、お願いしたいと思っています。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

障害を持たれた方もいらっしゃっていますので、ご意見を頂きたく思っております。

【市民Ｖ】

今は経済が厳しい状態ですけれども、一つ言わせて下さい。

自分の娘が、フルートの先生をやっております。２年前に、千葉市に引っ越してきました。緑区は緑が豊かで、とても良いところです。文化の面でちょっと遅れているところが残念かな、という話も出ていました。娘が言うには、発表の場、コンサートの場ですね、これをインターネットで調べるんですが、千葉市には良い場所がないということです。施設があっても音響が良くない。50人から100人くらい集まって、コンサートが聴けるような、そういう施設があればと思います。

またソフト面では、プロの人をしっかりとサポートできる体制があれば良いと思います。

市川市は、文化が高い、良くやっていると思います。千葉市も、市川市のようにやって貰いたいと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

まず、図書館の話がありました。私も、図書館は重要だと思っております。近隣ですと、まあ浦安市、それから袖ヶ浦市は財政が豊かですので、できることも違うんですけれども、比較的充実していると思います。

最近、財政難で図書館の予算も削られる中で、苦しい運営を強いられております。けれども、なんとか、図書館の場も有効に使っていって、あそこは人が集まる、知を集約する場所ですから、単に本を貸し借りする場所ではありませんということで、いろいろな市民の団体の方ですとか、力をお借りしながら、考えていきたいと思っています。そういったこともそうですし、図書館の戦略的な位置づけ、活用を、長期的な計画の中に組み入れていかなければと思っています。

安心して子育てできるまち、というキーワードが出てまいりましたけれども、まさにそこだと思います。千葉市が、他のまちと違う魅力を出していくには、住政策が大事だと思っています。東京に近く、緑もあり、先ほどはゴルフ場もあると仰っていましたが、とにかく、環境が良くて何でもあるのが、この千葉市の魅力です。ですから、その魅力を発信していって、千葉市に住みたいという人を増やす、子どもが増えることにもつながります。ですからわれわれは、そういったことにもっと努力していかなければならない、その中に、図書館の話もあるのだろうと思います。

それから、社協の活動場所、社協の中の団体の活動場所というお話がありました。その話は、どこに行っても言われるんです。やはり高齢化して、団体が増えてまいります。それは高齢者の方の団体だったり、高齢者の方に対する団体だったりしますが、それにリタイアされた方々の団体も、これから増えてくるでしょうから、そういった団体の活動場所は重要だと思っております。

土気のいきいきセンターについては、この場では回答できませんけれども、いずれにしても活動場所が重要というのは十分認識しておりますので、われわれも意識していきたいと考えております。ハコモノを作るのではなく、今ある施設をどうするか、民間の建物をどうするかということの中で、考えていきたいと思います。

それから、文化です。ちょっと苦しいところがあります。各区で区民ホールを作るという話があったんですが、お金がなくて、しかも各区に１つ必要かという話もあって、計画の見送りがされているわけです。確かに、緑区にはそのような施設がございません。私が住んでいる稲毛区にもございません。

そのようなことで、今この場では、作りますと言うことはできません。しかし、市のものでなくとも、この千葉市には県の施設もありますから、そういった意味では、いくつか発表の場としてふさわしい施設があるんです。そういったものが、すぐインターネットなりで見つかるようにしなければなりません。

今までの市のホームページでは、市の施設しか紹介していませんでした。ここは県庁所在地ですから、県の施設もたくさんあるんですね。皆さんにしてみれば、市の施設だろうと県

の施設だろうと関係なく、皆さん市民であり県民であるわけですから、県の施設も含めて、しっかりと情報をお出ししていく、そういうことが重要だろうと考えております。

それから、プロのサポートのお話がありました。確かに、市川市はそういった面で優れていると、私も聞いたことがあります。ですから、市川市と同じ事をするかどうかは別ですが、文化というものは、これから千葉市が成熟した都市になっていく中で重要ですから、限られた予算の中で、いったいどこに予算を使えば、一過性でない文化の下支えができるかな、という観点から、われわれはやっていきたいと思っています。

今は財政が厳しいですから、私はいつも言っておりますが、バンと花火を打ち上げるような、一過性のものに、お金をじゃぶじゃぶ使うのは意味がありませんから、もっとですね、市民の団体に小さなお金を渡していくような考え方に、変えるべきだと思います。

すみません、時間をオーバーしてしまいました。ご発言頂けなかった方も、もしよろしければ紙に書いて頂戴できれば、読ませて頂きますのでご容赦下さい。

【鈴木企画調整局次長】

長時間、ありがとうございました。

それでは最後に、全体を通してのまとめということで、市長からごあいさつを頂きたいと思います。

【熊谷市長】

本当に今日は、多くのご意見を頂きまして、ありがとうございます。

最後、多くの方に手を挙げて頂きましたのに、ここで終わることを心苦しく思うんですけれども、冒頭にも申し上げたとおり、これで終わりではございません。今後、ワークショップもございますし、もっとテーマを絞った中で議論を重ねていくことを考えています。シンポジウムもございますし、さらには、区ごとに、私じゃありませんで区長との対話の中で、こういった形をやらせて頂くことも考えておりますので、また、ご発言をして頂きたいと思います。市長への手紙も、私は全部読んでおりますので、そういったさまざまなものの中で、周囲の方とお話し合いになって練ったご提言なりを、お寄せ頂きたいと思います。

今日はスタートですので、これから１年半、基本計画を作っていく中で、市民の方が盛り上がっていって、お金はなくとも市民の活力で、市民の活力は無限にあるわけですから、この千葉市を、逆に言えば市役所を引っ張っていくような、引きずり回していくような、そういう市に生まれ変わらせていきたいと思っております。

ですから、今日お集まりの皆様には、それぞれの地域での、それぞれのお立場での活動をやって頂きたい、われわれもサポートしていきたいと考えております。

今日は、お忙しい中、土曜日の２時間を頂戴したことに感謝申し上げまして、あいさつに代えさせて頂きます。本当にありがとうございました。

■開会

以上